

女子学生応援セミナーで就職活動サポート

座り方ひとつで印象が変わる 身だしなみとおしゃれ

中央大学OGによる学生支援団体「女性白門会」が主催する第24回ウイングの会、「女子学生応援セミナー」が昨年12月1日、多摩キャンパスで開催された。参加した学生は講演や内定学生の体験談などを聞き、パワーアップして就活に臨むと語った。

第24回 WINGの会「女子学生応援セミナー」概要

日時：2018年12月1日(土)13:30～16:30

会場：中央大学多摩キャンパス3354教室

【第1部】講演

「学生生活、就職活動、その後の社会人生活でも
キラキラ輝く女性になるために

～学生力UP・女子力UP法伝授します～

講師：河崎峰子氏

(学校法人 山野学苑山野美容芸術短期大学教員)

【第2部】パネルディスカッション

「内定女子学生による就活のリアル

～後輩へのアドバイス～

パネリスト：

下田星里菜さん(2019年3月、経済学部卒業)

内定先：明治安田生命保険相互会社

森 春菜さん(2019年3月、法学部卒業)

内定先：特別区



パネリストの2人、
左から森さん、下田さん

交代制。



の違い



河崎講師



矢島未和 (法学部4年)

今後の人生にも役立つ

第1部では、「学生生活、就職活動、その後の社会人生活でもキラキラ輝く女性になるために～学生力UP・女子力UP法伝授します～」と題して講演会が行われました。

講師に、日本航空国際線で客室乗務員として活躍した河崎峰子先生を招いて、ビジネスマナーの5つ

の要素である、挨拶・表情・身だしなみ・言葉遣い・態度について教えて頂きました。同氏は山野美容芸術短期大学教員で、専攻は国際美容コミュニケーション。

参加者はペアを作って挨拶の仕方を練習したり、結論から話すことを実践したり、日常の場面でも生かせることを学びました。

また、座り方ひとつで相手に与える第一印象が良くなることを知り、就職活動に臨む学生にとって有意義な講習であったと思います。

特に印象に残ったのは、身だしなみについての話です。

身だしなみとおしゃれには違いがあり、「身だしなみは相手のために整えること、おしゃれは自分のために飾ること」といいます。今後は状

況に合わせて、身だしなみとおしゃれを意識しようと思います。

このように挨拶や身だしなみ、正しい言葉遣いの一つ一つに意味や効果があり、行動の重みや重要性を感じました。

受講後、私自身もインターシップなどに参加する機会がありました。そこでは講習で教えて頂いたことが自信につながり、他の学生や社員の方と良いコミュニケーションをとることができました。

ビジネスマナーは、相手との信頼関係を築くために大事なものだ実感しました。

今後の人生において、知っているだけで相手からの印象をより良いものにできるポイントを多く学ぶことのできる講演会でした。



門脇尚央 (法学部4年)

情報収集は 先を見据えて

第2部では、特別区と民間企業から内定を得た先輩2人のお話を伺いました。

内定までの道のりは異なるものの、先を見据えて情報を集めることは就職活動を進めていく中でとても重要であると感じました。

1年次から学内説明会に参加したり、希望業種の選考解禁に備えて競合他社のインターンシップや練習を兼ねた選考に参加したりと、具体的な内容やスケジュールを示して頂き、良い機会となりました。

2人の志望動機や将来像を伺うと、就職活動に正解はないと実感しました。

公務員や民間企業は、それぞれに良いところと課題があり、業界・業種、企業そのものによって異なります。

たとえ世間一般に評価されている企業だとしても、その評価の軸が、自分が重きを置く軸と異なれば良い職場ではないように感じます。

先輩2人のお話のなかでは度々「輝く」という言葉が出てきました。考慮すべき事項は山ほどあり、自分

にとっての優先順位に悩むことも多々ありますが、私の原点でもある「輝く女性でありたい」という思いを、2人とも口にしていたことに背中を押されたような気がします。

このセミナーは、女子学生を対象にしたものとあり、女性ならではの職業・職種選択の話題も挙がりました。

女性の多くが一般職を志望するイメージを抱いていたため、中央大学の女子学生の7割が総合職に内定しているという現状に少し驚きました。

時代は変化しています。昨今は育児に参加したいと願う男性や、働く女性として経済的に自立したいという人も増加しています。

それに伴い、職場環境が変わり、福利厚生も充実しているという話も聞きます。

選択した企業で働くのは私たち自身です。世に出回る多くの情報だけを鵜呑みにせず、自分の考えと向き合いながら、充実した就職活動を送りたいと強く思いました。



永野汰治 (経済学部4年)

男性の立場として

大学3年になれば、だれもが直面する就職活動。言葉遣いやメールの出し方などのビジネスマナーは男女共通しているが、なかには女性特有の問題があることが今回の講演を通して気づいた。

まずは面接での振る舞い方である。

男性と女性とでは立ち方や座り方に違いがあることをご存じだろうか。特にスーツスカートを着ている女性は注意が必要だそうだ。

スーツスカートで椅子に座ったとき、スカートのしわを伸ばそうと、腰を浮かせてはいないだろうか。面接



講演風景

官から見るとその姿はあまり美しく見えないようで、講演ではしわができないように座る方法をレクチャーして頂いた。

つぎに化粧である。

就活の場面で化粧は必須だが、普段のようにおしゃれを意識した化粧では社会人である面接官には通用しないそうだ。

普段のおしゃれでする化粧は「自分を着飾るため」のものだが、就活での化粧は「相手のために整える」もので、身だしなみであるためだ。

化粧をしない私は意識する機会がなかったが、化粧をするのにもたくさんの苦勞があるのかと驚かされた。

今回の講演は普段スーツスカートや化粧を用いない私にとっては、男女で意識することがこんなに違うのかと驚くとともに、違いを知って

就活に臨むことの大切さを学んだ。

新しい発見がある講演だった。

女性の社会進出について

私はゼミの活動で「男女共同参画社会」をテーマに女性の社会進出や育児に関する現状や課題などを研究している。

近年、働き方改革や女性活躍推進法の施行などによって女性の社会進出が注目されている。しかし日本の現状を見てみると、第一子出産を機に女性が離職する割合は約5割と高い。

家事分担の割合を男女で比較するといまだ女性が多くを負担しているなど、女性が仕事と家庭を両立するのが難しい現状がある。

さらに平成9年以降は共働き世帯

が専業主婦を上回り、今や夫婦共働きが一般的になってきた。採用側も女性を積極的に雇用しようという意識が高くなっている。

人生100年時代と言われるなか、どのような業界や職種ならば働き続けることが可能なのか。今回の講演は、そんなことを考えるきっかけになった。



□ WINGの会

本学出身OGが現役女子学生に進路・就職支援・応援を目的に発足した。今回のセミナーは24回目を迎えた。

学生記者になりませんか?

『HAKUMON Chuo』は中大生が取材・編集する大学広報誌です。現在、学部在生を对象に学生記者を募集しています。

- 元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方をはじめ添削指導を受けることができます。将来どんなキャリアを目指すにも文章力が重要です!
- 取材を通して、さまざまな人に出会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。
- 記者活動を通してコミュニケーション能力など「社会人基礎力」を身につけることができます。

憧れの報道番組キャスター
中大4年生が日テレ
「news zero」で奮闘中

学生記者 山田 亮太郎(法学部4年)



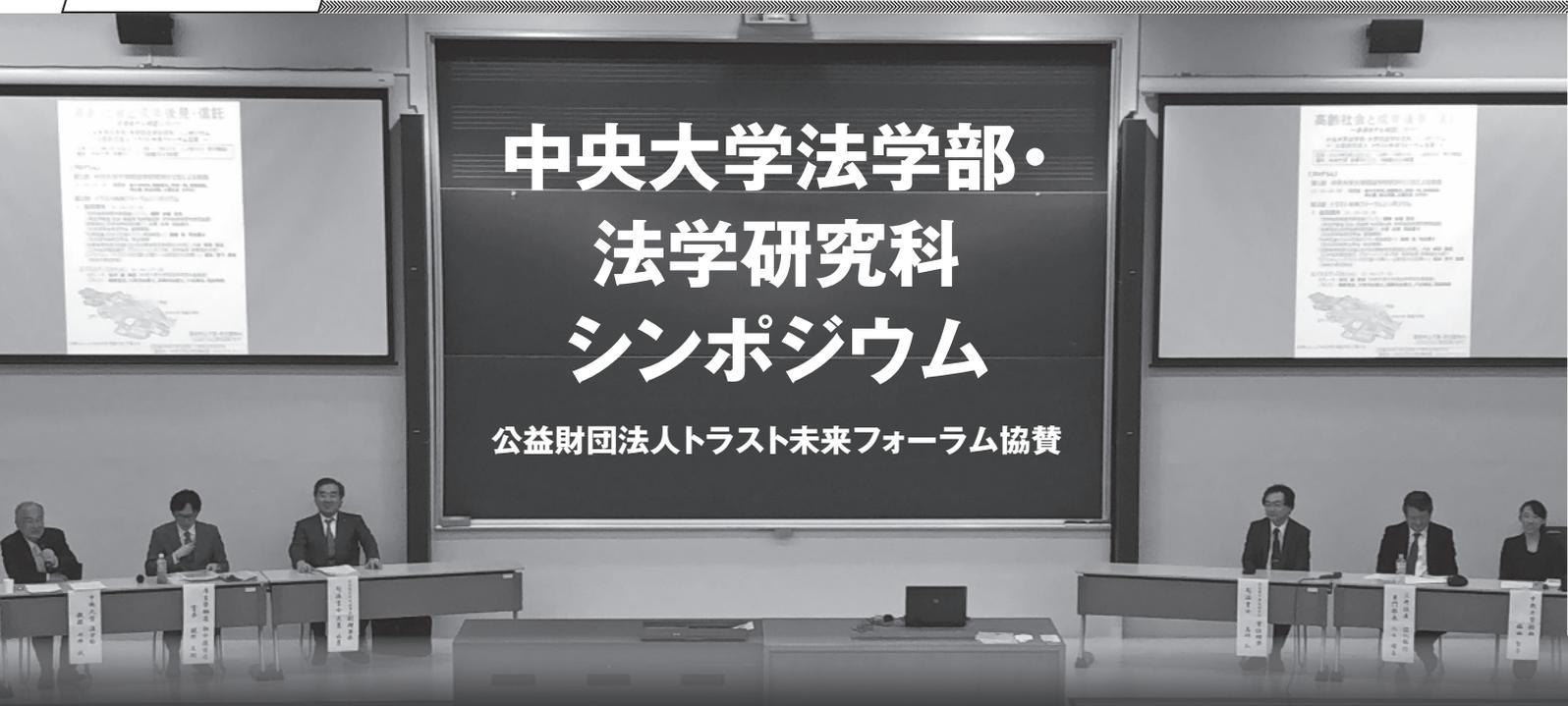
剥製標本、骨格標本を請負製作する
内田晃氏は中大理工学部卒

保存状態良ければ「100年、200年は大丈夫です」

学生記者 片桐将吾(法学部4年)



箱根駅伝予選通過に貢献
モチベーションビデオ
制作奮闘記



「高齢社会と成年後見・信託 —多摩モデル構築に向けて—」

3月16日、中央大学多摩キャンパスにて、シンポジウム「高齢社会と成年後見・信託—多摩モデル構築に向けて—」が開催されました（法学部・法学研究科主催、公益財団法人トラスト未来フォーラム協賛）。

中央大学法学部助教 福田智子

本シンポジウムは、平成27年度より法学研究科の新たな試みとして始まった社会人向け特別講座（講師：新井誠教授）の成果発表として毎年行われているものですが、今回は受講者による発表だけでなく、厚生労働省成年後見制度利用促進室長や日本成年後見法学会理事の方々をお招きするなど、重厚な内容で行われました。

当日は多数の皆様にご参加頂き、成年後見・信託制度に対する関心の高さが感じられました。

中央大学では本年度も継続して、公益財団法人トラスト未来フォーラムの援助による信託寄附講座及び本講座の開設が予定されるなど、成年後見や信託制度を学ぶ場が多く提供されております。ご興味ある方はぜひ、参加してみてください。



1部発表者 佐々木幸司氏

登壇者からのメッセージ



佐々木 幸司氏

(飯能市役所 地域・生活福祉課 生活保護担当 I部発表者)

成年後見制度についての理解が深まり、とても有意義な時間でした。ゼミに参加させて頂きまして誠にありがとうございました。



土橋 正忠氏

(I部発表者)

かつて、生き方に迷ったとき、先輩から「大学は、大学に入れなかった人のためにある。」と教えてもらった。身につけた知識は決して自分だけのものではない。それを世間の日の当たらない人たちにどう還元していくかではじめて生きてくる。今回のテーマである「成年後見」や「信託」もきっとそうであると硬く信じている。



香山 芳範氏

(明石市後見支援センター 主任 I部発表者)

非常に興味深かったのが、「任意後見人に誰を選びますか」との会場からの質問に、登壇された先生方の多くが「親族」をあげていたことです。



松田 拓也氏

(法学研究科博士前期課程 I部発表者)

学生の身分においては、日頃の研究内容を外部の方々に披露する機会は限られております。そのような中、此度のシンポジウムは大変貴重な場となりました。



何 心蕙氏

(法学研究科博士後期課程 I部発表者)

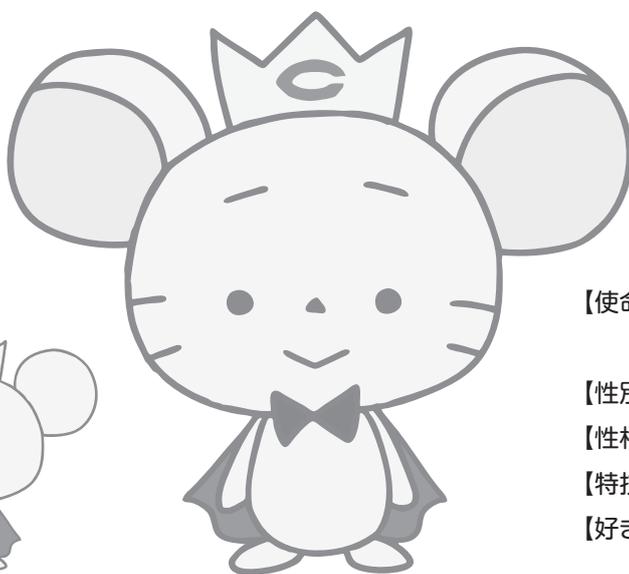
理論と現場の事例を結んだ講演によって、成年後見制度のあり方をより一層認識しています。大変勉強になりました。



受験生応援 中央大学マスコットキャラクター

チュー王子





プロフィール

【使命】 中央大学に関する諸活動・
団体を応援すること

【性別】 男

【性格】 感動屋、笑い上戸で泣き上戸

【特技】 エールを送ること

【好きなタイプ】 頑張っている人、
努力している人

